

東北海洋生態系調査研究船 「新青丸」

「新青丸」は、アジマススラスタ2基にダイナミックポジショニングシステムを装備すると共に、多種多様な観測機器・可搬式研究設備を保有しており、海洋環境観測、海底地形調査、海洋気象観測などの総合的な研究観測を行うことができます。

平成25年1月に退役した学術研究船「淡青丸」の後継船として、同船が担ってきた役割を引き継ぐと共に、「東北マリンサイエンス拠点形成事業」(※)に必要な研究を、最先端の観測機器・研究設備により、効率的・効果的に推進するために建造されました。



主要目

・竣工	2013年	・喫水	4.5m
・全長	66.0m	・国際総トン数	1,629トン
・幅	13.0m	・最大航海速度	13.2ノット
・深さ	6.2m	・航続距離	約6,500マイル

・定員	41名(乗組員26名、研究者等15名)
・推進システム	ディーゼル電気推進
・主推進器	アジマス推進器(2基)



※「東北マリンサイエンス拠点形成事業」

平成23年3月11日に発生した東日本大震災の津波・地震の影響で海洋環境が激変した東北沖の漁場復興に、大学等に蓄積された科学的知見を有効に活用するため、復興支援のネットワークとして構築されたもので、JAMSTECもその中心機関のひとつとして海洋生態系の調査研究を推進しています。



海洋生態系調査を東北の復興支援に

「新青丸」は、多種多様な観測機器・可搬式研究設備で 海洋環境観測、海底地形調査、海洋気象観測などの 総合的な研究観測をサポートします。

研究設備・観測機器

■ 研究室 約140m²

第1研究室、第2研究室(ドライ区画、セミドライ区画、ウェット区画)、第3研究室(暗室兼用)、
重力計室、CTD室、薬品保管庫、サンプル保管庫、ウインチ操作室

■ 船舶搭載観測機器(常時搭載されている機器)

気象海象観測装置、気象衛星受画装置、船体動揺船首方位測定装置、
表面海水塩分水温計、計量魚群探知機・浅海用マルチビーム音響測深機、深海用マルチビーム音響測深機、
全周型スキャニングゾナー、精密音響測深器(PDR)、パラメトリックサブボトムプロファイラー、
多層式流向流速計(ADCP)、海底地殻変動センサー測位用送受波器、船上重力計、船上三成分磁力計、プロトン磁力計、
CTD センサー・カローセル式採水装置、12L×24本採水器、ピンガー、トランスポンダー、XBT/XCTD 装置、海底音響測位装置

■ 可搬型観測機器(常時搭載されていないが必要に応じて搭載可能なもの)

クリーンラボコンテナ(20ft)、GPS気象ゾンデ放球装置コンテナ(10ft)、SCSエアガンコンプレッサー、MCSエアガンコンプレッサー

■ 船舶搭載観測ウインチ(常時搭載されているウインチ)

同軸ケーブルウインチ、CTD用ケーブルウインチ、中型観測ワイヤーウインチ、小型観測ワイヤーウインチ、磁力計ウインチ

■ 可搬型観測ウインチ(常時搭載されていないが必要に応じて搭載可能なもの)

大型観測ワイヤーウインチ、光電気複合ケーブルウインチ、クリーン採水用ウインチ、係留系ロープウインチ、
トロールウインチ、ロープ巻き取りウインチ



研究室



CTD 採水器



GPS 放球コンテナ



同軸ケーブルウインチ



ウインチ操作室



アジマス推進器



音響測位装置送受波器



サンプル保管庫

